

Title	特集2 商業都市のなかの対話の実験室 : ソクラテイク・ダイアローグ国際会議報告
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 10 p.18-p.18
Issue Date	2002
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/10579
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

特集 2

商業都市のなかの 対話の実験室

ソクラテック・ダイアローグ国際会議報告



会場ニューマンカレッジ近くの公園に佇む参加者たち
(イギリスフォトアルバム3)

イギリス・バーミンガムは世界の諸民族が労働者として集まる国際的な商業都市である(周辺には広大なイスラム教徒の居住区もある)。そのバーミンガム近郊のニューマンカレッジにて2002年7月28日から8月3日まで、ソクラテック・ダイアローグの国際会議が開催された。隔年の夏に開催され、今回で四回目になる。イギリス・オランダ・ドイツの人たちを中心とした100人前後のカンファレンスで、日本からは中岡、本間、寺田、堀江、高橋、会沢、稲葉の臨床哲学のメンバー、及び久保田さん(平和運動家・イギリスのSD指導者の一人Rene Saranの生徒だった女性)とSebastiaan Jansen(オランダ人・日本に留学中)が参加した。

今回のテーマは「Ethics and Socratic Dialogue in Civic Society」、民主主義的な政治活動・教育、とりわけNPO、NGO、第三セクターでの様々な組織活動と対話を問題にする報告や議論が多かった。SDの方法論に関するワークショップやSDも、前回と比べて工夫されていた。また久保田さんが「日本での平和運動」に関するワークショップを、そして中岡、寺田、本間・堀江がペーパー・プレゼンテーションを行ない、「日本人たちもSDに積極的にコミットし始めている」ということをアピールできたように思う。

以下は、堀江・寺田・会沢からの報告・感想である。それぞれが参加した個々のワークショップやSDの臨場感、また会議の活気といったものが、読者の方々にも伝わればと思う。